

<記載様式>

2018「神戸から学ぶ」私の感想

2018 年 2 月 10 日

氏名(会員番号)	植山 利昭	参加回数	回目
参加した場所 (番号に○印)	参加者:相原夫妻・池田・上原・植山・荏本・片山・早川・山田(美)さん計9名 I 阪神淡路大震災関連: ① 神戸市役所 ② 人と防災未来センター ③ 神戸県立大学:青田先生の講演・同 大学院生との意見交換 ④ ○神戸南京町の懇親会 ⑤ ○1.17つどい(慰霊のつどい) ⑥ ○ 阪神高速(株)震災保管庫解説・見学 移動 湯浅城宿泊 7名 II 稲村の火関連:サイクルまち歩き ⑦ 「稲むらの火の館」:・津波防災教育センター・濱口梧陵記念館 ⑧ 国の史跡:広村堤防:現在の防波堤 ⑨ 濱口梧陵関連:感恩碑・銅像等 ⑩ 広八幡神社:梧陵濱口君碑(勝海舟撰文並題額):稲むらの火祭 III その他各種資料・新聞等		
他の参加・見学等			
今回参加した感想 (番号○付記)	今年も神戸市役所隣の東公園に行った。あいにくの雨ではあったが、多くの人たちが毎年のように参加されていた。傘でゴった返してはいたが、いつものように、竹筒にろうそくを灯し、追悼することに参加出来た。 今年は、若い人たちが多かったように感じ、また、あちこちで、東日本大震災や熊本からの被災者や支援の人たちとの交流も重ねられ、これまで以上に、被災の体験を次の世代に、いかに伝えていくべきかが、課題であることを問われていると感じた。 その後、池田さんたちとドッキングして、神戸市深江の、あのショッキング画像で有名な、傾いた道路の残骸を保管している、阪神道路公団の倉庫のような展示場に行った。 日本の近代化を進めた世界に誇る土木技術が、一瞬の地震で、いとも簡単に断絶、折れ曲がる現物を見ると、自然の恐ろしさをまざまざと突き付けられる。この阪神・淡路大震災の教訓をもっと多くの人たちに伝えて欲しい思いを改めて感じた。 振り返れば、阪神・淡路大震災のちょうど1年前、アメリカのロサンゼルスでの地震で、道路の崩壊があちこちで起こり、当時の日本の危機管理者が、日本では絶対に起こらないと豪語していたにも関わらず、である。その反面、ボランティア活動の重要性もアピールされたのも大事ではある。私たちは、何を教訓化していくことか、この機会に、改めて問い続けていきたい。 東日本大震災では、過去の被災から学ぶことの大切さを問われ、また、日本が過去多くの自然災害に翻弄されながらも、生きていく智慧を培ってきた歴史を学んだはずでは、なったのか。改めて、福島の人々を苦しめている、原発の安全神話の崩壊や、これだけ地震国であり、火山国であり、風雨水害が多く土砂崩れが多発する、土地に、リニアなど、過去の技術神話をまた再び持ち出すなど、何も学んでいない、日本人気質をこそ教訓化しなければと感じています。その意味でもこの阪神道路公団の遺産はもっと多くの人に訴えて欲しい。		